



Title	台湾から前田先生をしのぶ
Author(s)	王, 敏東
Citation	語文. 2026, 126, p. 10-11
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/106099
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

台湾から前田先生をしのぶ

王 敏 東

2025年11月、あやしい空模様の日に前田先生の突然の訃報に接しまして、驚きと悲しみに打ちひしがれています。

前田先生のおかげで、私は台湾からの留学生として1988年4月から1994年8月まであわせて6年間あまりの間、大阪大学で充実した留学生生活（研究生・大学院生）を過ごしました。留学期間中、研究はもちろんのこと、日本（人）に関してもいろいろ教えていただきました。帰国してからも、推薦状などの手配までしてくださいました。本当に前田先生がいらっしゃらなければ今の私はいないと思っています。

私のことで、先生は2回ほど台湾においてになりました。1回目は私が修士課程を終え、博士課程に入ったばかりの時に、台湾で行なった私の結婚式に出席していただいたためです（先輩数名も同行）。2回目は先生を台湾の大学に講演者としてお迎えしたためです。

私が留学していた当時は、日本の大学の文学部から留学生に博士号を授与することがまだ珍しい時代で、日本で修士号を取った

ら台湾に帰って結婚するつもりでおりました。しかし先生の寛大で先進的なお考えで、なんと台湾から来た二十代の女の子である私を、博士課程に進学できるようにしてくださいました。そのおかげで、博士課程一年の時、予定通り結婚し、先生と研究室の方々を台湾までお招きしたのです。

博士課程に進学後も、博士論文についての悩みを、先生がご自宅の宝塚から会議のため京都に行かれる途中の電車で、相談に乗ってくださいましたことがあります。

卒業してから、無事台湾で就職できました。より多くの人に先生のご研究を理解してもらおうと、2005年には台湾大学と銘傳大学にご講演を来ていただきました。その都度、交流協会（日本と台湾が国交がないため、大使館代わりの機構）に食事の招待を受けた他、私の教え子に先生をあちこち案内してもらいました。教え子に、当時前田先生と台北の繁華町である西門町でカラオケに行ったりドイツ料理（アイスバイン）を食べたりしたと聞きました。

あんなにお元気で、研究や学生の指導にご熱心だった先生がご逝去など、とても信じられませんでした。

誰しもそうかもしれませんが、初めて前田先生の研究室へ入った時は、大量の本が印象的でした。実はそれらの本のほとんどは私が以前勤務していた台湾の銘傳大学に寄贈していただきました。全部で数万冊もあった本を、当時大阪大学言語文化部に在学中であつた羅曉勤氏（2026年現在台中科技大学応用日本語学科主任）に先生の研究室での目録作りにご協力いただき、私がこちらの教育部（日本の文部科学省相当）や税関との綿密なやり取りを行なった末、3回ぐらいに分け、船で台湾まで運んだのです。銘傳大学は図書館に「富祺文庫」を設け、多くの方々に利用機会を提供しています（<https://mcu60map.mcu.edu.tw/content/%E5%9C%96%E6%9B%B8%E9%A4%A8-%E5%AF%8C%E7%A5%BA%E6%96%87%E5%BA%AB>）。

ご生前に賜りましたご指導とご厚情に深く感謝するとともに、先生の安らかな旅立ちをお祈り申し上げます。

（おう・びんとう 国立台湾科技大学教授）